

令和 6 年 6 月 22 日現在

機関番号：33305

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00719

研究課題名（和文）小・中英語教科書で見る教員養成・研修に活かせる英語の背景知識の体系化に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Systematization of the Background Knowledge of English Utilized in Teacher Education and Training Through the Elementary and Junior High School English Textbooks

研究代表者

笠間 弘美（Kasama, Hiromi）

金沢学院大学・教育学部・教授

研究者番号：40204367

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、データ収集による計量分析から小・中学校英語教科書の取り扱い語彙数と、中学校英語教科書の学年ごとの本文で扱われている延べ単語数を算出し、小・中英語教科書の外観をつかんだ。また、データ収集で得た言語材料を音声・語彙・文構造を中心に分析・考察し、その内容を「英語に関する背景的な知識」につながるものとして体系的にまとめた。小・中学校の英語教科書から収集した用例は、今後「英語に関する背景的な知識」の説明に活用できると考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小・中学校英語教科書で扱われている内容をテーマや言語材料に分けて分析・考察し、その内容を具体例として教員養成課程の学生や教員研修に活かせる英語の背景知識を明らかにすることで、得た知識を実際の授業に活用できる場面が想像でき、知識を得ようとする意欲につなげることができる。したがって、今回明らかにした英語の背景知識を授業や講座に取り入れることで、教員養成課程の授業や教員研修の充実を図れるものと考えられる。指導項目に関する背景知識を持っているということは、授業を担当するうえでの自信にもつながると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, I counted the number of vocabularies in the elementary and junior high school English textbooks and calculated the total number of words used in junior high school English textbooks and analyzed the appearance of the elementary and junior high school English textbooks. In addition, I analyzed the language materials, mainly on sounds, vocabulary, and sentence structures, examined them and gathered up the contents systematically as "background knowledge of English". I think that the examples which I collected from the elementary and junior high school English textbooks can be utilized for explanation of "the background knowledge of English" in future.

研究分野：英語教育

キーワード：小・中学校英語教科書 教員養成と教員研修 語彙 文構造 英語の背景知識 小中連携

## 1. 研究開始当初の背景

本研究が始まったのは、2021 年度であり、その 1 年前の 2020 年度から全面施行された小学校新学習指導要領に基づき、小学校 3・4 年生で「外国語活動」が必修化され、5・6 年生では、「外国語（英語）」が教科化された。小学校で英語が教科化される前年の 2019 年度には、文部科学省が新教員養成課程を導入した。その中には新しい内容として「小学校の外国語（英語）教育」が加えられ、教員養成と研修のためのコアカリキュラムが策定された。小学校での英語教科化に向けて指導者育成のための指針が整えられたのである。

小学校新学習指導要領の全面施行に伴い、2021 年度からは中学校の新学習指導要領（平成 29 年告示）が全面施行され、中学校検定英語教科書も一新された。したがって、研究開始当初は、英語を「教科」として学んで来た生徒を受け入れる中学校現場での戸惑いとともに、小中連携を視野に入れた英語教育が本格化した時期であった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、小・中学校英語教科書の内容を分析し、小学校教員養成課程の学生・教員研修のために活用できる英語の背景知識を体系的に提示することである。

第 1 項目で説明したような時代背景の中で、現場の教員にとってどのように英語を指導したらいいか、授業を担当するうえでどのような英語力や英語の知識が教員に求められるかなど、不安材料は多いと考えられる。また、教員養成課程の学生にとってもどれだけの力をつけられいいのか、さらに教員養成課程の授業を担当する教員にとっても学生にどれだけの力を付けさせられいいのか思案のしどころではないかと考える。特に、英語の知識については具体的にどのような知識を身に付けられいいのか三者それぞれの立場で悩む点ではないかと考えられる。文部科学省が出している「「外国語（英語）コアカリキュラム」の中にある「外国語に関する専門的事項」の「英語に関する背景的な知識」の中には学習項目として「英語に関する基本的な知識（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）」、「第二言語習得に関する基本的な知識」、「児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）」、「異文化理解」の 4 点が挙げられている。それらの解説には具体的な例が必要であり、本研究では、それを小・中英語教科書の内容から体系的にまとめ、旧小学校英語活動で指摘されていた体系的な学びの欠如を補い、より円滑な小中連携ができるようになることを目指す。

## 3. 研究の方法

まず、小学校検定英語教科書 7 社分の内容を扱っているテーマと言語材料の面から分析し、小学校教員養成課程の学生と現場の教員研修に必要とされる「英語に関する背景的な知識」を取りまとめた。その過程で、各社で扱われている語彙数をまとめた。

使用した英語教科書のタイトルと出版社は以下の通りである（アルファベット順）。

*Blue Sky elementary 5,6*（啓林館）（以下、*BSE5,6* と略す）、*Crown Jr. 5,6*（三省堂）（以下、*CWJ5,6* と略す）、*Here We Go! 5,6*（光村図書）（以下、*HWG5,6* と略す）、*Junior Sunshine 5,6*（開隆堂）（以下、*JSH5,6* と略す）、*Junior Total English 5,6*（学校図書）（以下、*JTE5,6* と略す）、*NEW HORIZON Elementary English Course 5,6*（東京書籍）（以下、*NHE5,6* と略す）、*One World Smiles 5,6*（教育出版）（以下、*OWS5,6* と略す）

次に、中学校検定英語教科書 6 社分で扱われている語彙数と、本文の延べ語数をまとめた。1 年目に整理した「英語に関する背景的な知識」に補足・修正を加え、整理した。

使用した英語教科書のタイトルと出版社は以下の通りである（アルファベット順）。

*Blue Sky English Course 1, 2, 3*（啓林館）（以下、*BS1,2,3* と略す）、*Here We Go! ENGLISH COURSE 1, 2, 3*（光村図書）（以下、*HWG1,2,3* と略す）、*NEW CROWN English Series 1, 2, 3*（三省堂）（以下、*NC1,2,3* と略す）、*NEW HORIZON English Course 1, 2, 3*（東京書籍）（以下、*NH1,2,3* と略す）、*ONE WORLD English Course 1, 2, 3*（教育出版）（以下、*OW1,2,3* と略す）、*SUNSHINE ENGLISH COURSE 1, 2, 3*（開隆堂）（以下、*SH1,2,3* と略す）

各英語教科書から収集したデータは、「英語に関する背景的な知識」の説明に用例として活用し、その知識の必要性が明確になるよう研究論文としてまとめた。

## 4. 研究成果

### (1) データ収集による小・中英語教科書の概要

小学校各教科書で扱われている語彙数：：*BSE5,6*: 543 語、*CWJ5,6*: 507 語、*HWG5,6* : 592 語、*JSH5,6*: 637 語、*JTE5,6*: 514 語、*NHE5,6*: 630 語、*OWS5,6*: 621 語。7 社平均の取り扱い語数は 578 語（以下、平均値は小数点以下四捨五入）で、取り扱い語数が一番多い *JSH5,6* と一番少ない *CWJ5,6* では 130 語の差がある。

中学校英語教科書で扱われている語彙数：*BS1,2,3* : 1,735 語、*HWG1,2,3* : 2,304 語、

NC1,2,3: 2,164 語、NH1,2,3: 1,683 語、OW1,2,3: 1,773 語、SH1,2,3: 1,949 語。6 社平均の取り扱い語数は 1,935 語 で、取り扱い語数が一番多い NC1,2,3 と一番少ない NH1,2,3 では 481 語の差がある。一方、中学校英語教科書の本文で扱われている延べ単語数は、1 年生で 6 社平均 1,560 語、2 年生で 3,096 語、3 年生で 3,445 語となっている。最小値と最大値 の差は、1 年生で HWG1: 1,046 語 対 OW1: 2,088 語、2 年生で HWG2: 2,754 語 対 OW2: 3,720 語、3 年生で SH3: 2,914 語 対 NC3: 4,278 語となっている。3 年間で、BS1,2,3: 6,915 語 対 NH1,2,3: 9,456 語であった。

## (2) 小・中学校英語教科書を通して見る「英語に関する背景的な知識」の取りまとめ

「外国語（英語）コアカリキュラム」の中にある「外国語に関する専門的事項」の「英語に関する背景的な知識」の中の学習項目から主な取りまとめ結果を挙げる。

語彙データの利用 意味がカタカナ語で表記されている英単語を抽出

この作業を通して、次の 3 点が整理される。

1. 発音における英語と日本語の違い 語強勢（アクセント）：英語は「強弱アクセント」、日本語は「高低アクセント」である。
2. 和製英語を含むカタカナ語（例：パン vs. bread） 正しい英語表現ではない。また、英語以外の言語からの借用もある。同様に、英語の中にも他言語からの借用語があることの認識が必要。
3. 語（句）の成り立ちに文法要素が含まれる。

過去分詞の形容詞的用法（例：fried chicken）。英語は受身の概念が明確である。

動名詞の-ing 形（例：キャンプ vs. camping）。カタカナ語をそのまま英文の中に当てはめられない。

語彙データの利用 日本語からの借用語の抽出

この作業の過程において、英語史から見る英語の語彙について触れることで、英語の背景知識として英語における借用語の歴史を概観することができる。抽出結果の数量的な分析に加えて、抽出語が扱われている教科書の単元テーマを分析することで、世界の国々が日本をどのように見ているか、言い換えると世界と日本の関係を知る糸口となる。

教科書本文のデータ利用 文構造に関する用例の収集

小・中学校新学習要領では、文構造について段階的な取り扱いが明記されているものの、使用されている教科書の用例を分析した結果、小学校英語の指導者であっても中学校での学習内容を視野に入れた知識を身につけておく必要があることがわかった。さらに、文構造に関する知識は、新学習指導要領に記述のある、文構造における「気付き」を促す指導にも大いに役立つことを指摘した。

児童文学から見る英語表現

村野井（2018：193-194）は、小学校英語教育の基礎知識における英語文学と児童文学の中で、代表的な英語文学作品の一つとしてマンスフィールドの「園遊会」（“The Garden Party”）を挙げている。本研究者は、長年、英文学の分野ではキャサリン・マンスフィールドの短篇作品の文体分析を行ってきた。これまでに行ったマンスフィールドの文体分析から彼女の作品に特徴的な用例の中でも、中学校の学習指導要領の学習内容に含まれている文法項目を選び、それらの使い方を深めることができる用例を選んでみた。その結果、色を表す語彙、接続詞、前置詞、副詞、分詞形を含む動詞の多用な表現、like を使った直喩など、英語学習者として一般的に学習する文法項目が、文学作品の中で組み合わせられたり、反復したりして使用されることで、様々な文章表現や場面・心理描写が出来ることがわかった。教員養成課程の学生にとっては、そのような体験をすることで英語の読解力や表現力を向上させ、英語に関する背景的な知識が深まると考えられることを示唆した。

## <参考文献>

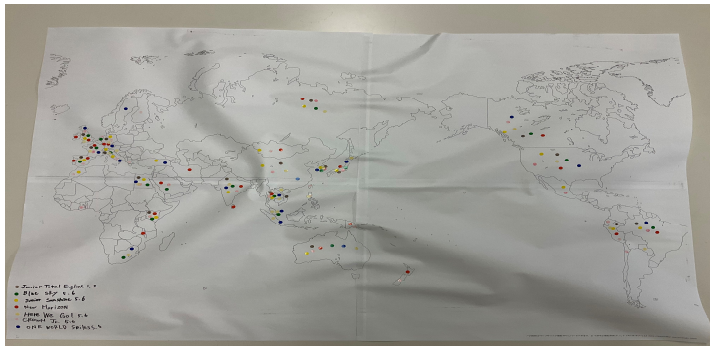
村野井仁 『小学校英語教育の基礎知識』、大修館書店、2018。

## (3) 収集データを「英語に関する背景的な知識」につなげる授業例

中学校の英語免許に必修の授業である「英語学概論」において、小学校英語教科書の語彙データから各社で扱っている世界の国々を抜き出し、用意した白紙の世界地図上に、出版社ごとに色分けしたシールを貼らせる（図）。シールが貼られた国々を、英語を母語とする国（Inner Circle）、第二外国語として英語を使っている国（Outer Circle）、外国語として英語を扱っている国（Expanding Circle）に分けさせ、言語学者、Braj B. Kachru の World Englishes の考え方についてグループで話し合いをさせる。

小学校教職課程の学生たちなので、指導で実際に手にする可能性のある教科書で扱われている国々に対しては、興味を持ってくれたようである。さらに、国際語としての英語の多様性についても触れることができた。

図：各小学校英語教科書で扱われている国々を印した世界地図



本研究の成果を通して蓄えてあるデータをさらに細かな項目で抽出すれば、さらに多くの種類の「英語に関する背景的な知識」がまとめられる。R7 年度の中学校英語教科書の改訂まで見直しを続けることを今後の課題としたい。さらに、中学校の教科書間で、本文で扱われている単語数にかなりの差があること、また、2 年次で教科書本文の文字数が 1 年次に比べてかなり多くなることから、そのギャップに関する考察を新たな課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 笠間弘美	4. 巻 第22号
2. 論文標題 中学校英語教科書に見る日本語からの語彙借用に関する一考察－教員養成と教員研修に活用する英語の基礎知識の観点から－	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 金沢学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 169-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠間弘美	4. 巻 第12号
2. 論文標題 マンスフィールド作品再考： 英語教員養成課程における英米文学教育の視点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 マンスフィールド研究	6. 最初と最後の頁 5-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠間弘美	4. 巻 第5号
2. 論文標題 小・中英語教科書の用例に見る文構造に関する一考察 - 教員養成と教員研修に活用する英語の背景知識の観点から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 金沢学院大学教職センター 紀要	6. 最初と最後の頁 103-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------